

from ほうかつ

令和6年2月発行

特集!

檜葉町の福祉関連計画を大解剖!

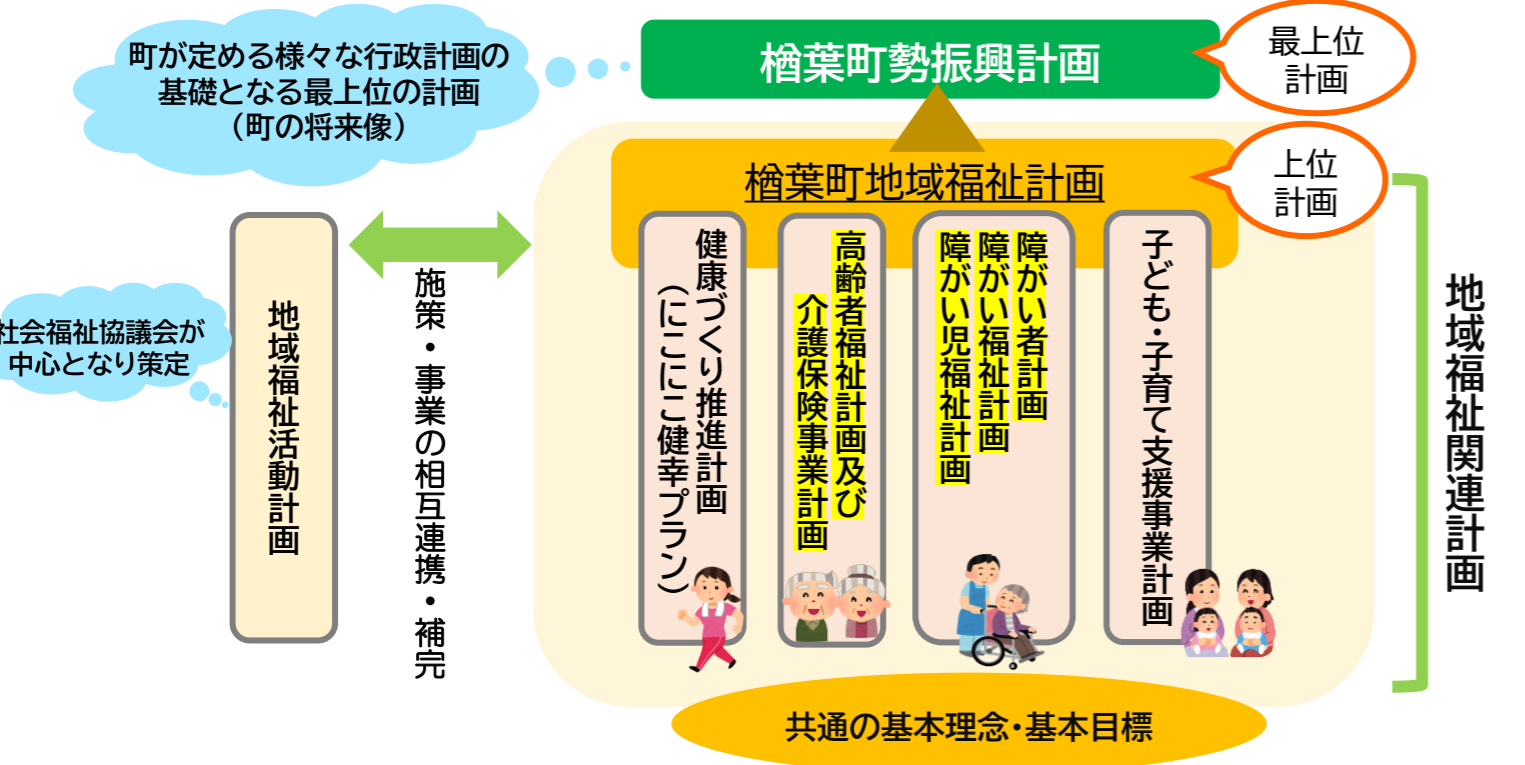
檜葉町では“みんなで支え合い 幸せを実感できるまち”を共通の基本理念として、地域福祉関連計画を策定しています。高齢・障がい・子ども・健康に関する各計画が相互に整合性を持つことにより檜葉町における地域福祉施策を一体的に推進しています。

今回は、地域福祉関連計画の概要及び現在、策定委員会が大詰めを迎えている高齢者福祉計画と障がい福祉関連計画について詳しくご紹介します!

◆地域福祉関連計画とは?

住み慣れた地域で生きがいを持ち、安心して生活できるまちづくりの実現に向けて町が策定した『檜葉町地域福祉計画』を上位計画として、分野ごとの行政計画で構成されています。

具体的には、**高齢分野**（高齢者福祉計画及び介護保険事業計画）、**障がい分野**（障がい者計画、障がい福祉計画、障がい児福祉計画）、**子ども分野**（子ども・子育て支援事業計画）、**健康分野**（健康づくり推進計画）があります。また、社会福祉協議会が中心となり策定する地域福祉の行動計画（地域福祉活動計画）も地域福祉関連計画のひとつです。



今年度末に『第9期高齢者福祉計画及び介護保険事業計画』の策定、『第3期障がい者計画』の中間評価及び『第7期障がい福祉計画』、『第3期障がい児福祉計画』の策定が行われます。策定及び中間評価にあたっては、事前に実施した住民向けアンケートのご意見等をもとに、各計画の策定委員会において施策の評価や目標値の点検・見直し等が進められています。

インタビュー



計画策定の担当者に聞く! ~地域福祉関連計画のあれこれ~



現在、策定(中間評価)の大詰めを迎えている高齢者福祉計画と障がい福祉関連計画について、町保健福祉課介護保険係の岡部係長、社会福祉係の松本係長にお話を伺いました!



左から岡部係長、松本係長

Q1. そもそも福祉計画って何のためにあるの?



社会福祉係 松本係長

町では“みんなで支え合い 幸せを実感できるまち”の実現を目指しているところです。福祉計画を策定する目的は「町が目指す地域福祉の姿(ビジョン)」を明確にし、そのビジョンを住民の皆さんと共有することにより、各施策を計画的に進めることにあります。

各計画では、上位計画である『檜葉町地域福祉計画』と共通の基本理念「**みんなで支え合い 幸せを実感できるまち**」及び共通の基本目標「**1 みんなが参加しやすく、つながりが持てるまちづくり**」「**2 みんなが助け合い、支え合う仕組みがあるまちづくり**」「**3 みんなが安心して共に暮らせるまちづくり**」を掲げています。これにより地域共生社会(住民の誰もが地域で役割を持ち、一人ひとりの暮らしと生きがい、地域をともに創っていく社会)の実現を目指しています。

Q2. 策定委員会でどのようなことが協議されているの?



介護保険係 岡部係長

各策定委員会のメンバーは多職種で構成されており、医療・介護・福祉等の関係機関のほか、ご家族を介護される住民の皆さんに参画いただいています。今年度の策定委員会は5回開催され、下の図のようなポイントが整理されました。

高齢者福祉計画
(高齢者生き生きライフ21策定委員会)

<協議のポイント>

- 共生社会の実現
- 相談窓口・相談支援体制の周知強化
- 個別支援の充実、生きがい活動の充実
- ➡ 支え合い制度の導入
- 認知症施策の充実
- ➡ チームオレンジの設置

障がい福祉関連計画
(障害者福祉計画策定委員会)

<協議のポイント>

- 共生社会の実現
- 障がい児支援体制の整備
- 就労の場・収入機会の開拓
- 誰もが参加しやすい集いの場の推進

Q3. 計画は私たちの暮らしにどのように活かされるの?



介護保険係 岡部係長

町として、住民の皆さんから寄せられたアンケート結果や各策定委員会の皆さんからのご意見をもとに課題を整理し、町の地域福祉の在り方を協議してきました。令和6年度からは、その協議内容を一歩前へと進め、施策を実践し、誰もが住みやすいと感じていただける町の地域福祉を実現していきたいと思っています。今後も是非お気軽に町保健福祉課までご意見をお聞かせください。

高齢者・障がい者の総合相談窓口

TEL:0240-25-4155 FAX:0240-25-4156

〒979-0604 檜葉町大字北田字鐘突堂5-5 (檜葉町保健福祉会館3F)

Email: naraha-houkatsu@car.ocn.ne.jp

お気軽にご相談ください。

地域づくりの
今！

檜葉町の地域づくりが全国誌の取材を受ける!!

～ 地域ミニデイから生まれる住民の支え合い ～



生活支援
コーディネーター
小林

昨年12月、中満地区の地域ミニデイ「中満なかまサロン」の皆さんが、全国社会福祉協議会より取材を受けました。全国社会福祉協議会は、各市区町村、都道府県・指定都市に設置運営されている社会福祉協議会の全国組織です。

今回は“福島沿岸地の地域づくりの今を取材する”という趣旨で行われた取材の様子と、ミニデイに参加された皆さんの声をお届けします！



取材のこの日、クリスマス会が開催されました♪

中満なかまサロンについて

中満なかまサロンは月2回開催しています。震災前はみんな別の行政区に住んでいたけれど、ミニデイを通して、今ではすっかり顔なじみになりました。数年前ミニデイがスタートしたときは4～5人だった参加者は17人まで増えました。



みんなの意見を聞きながら
楽しく活動しています



インタビューを受けるミニデイ代表の加藤さん

参加者は70代～90代まで幅広いです。介護予防体操や保健師による血圧測定、各出前講座（健康講話、認知症に関すること等）や、スカットボール、町めぐりバスツアー等を開催して、みんなと交流を深めています。普段でも声をかけ合って一緒に散歩に出かけています♪

血圧も落ち着いて
いますね



磐城センター長による血圧測定＆「正しい手洗い」に関する健康講話も行いました

笑い合える仲間がいるっていいだな♪

ここは中満でも一番にぎやかな場所。周りに積極的に声をかけて、新しいつながりがたくさん増えました。集まりは大勢のほうがいいものね。今が楽しいよ！



毎回ミニデイが楽しみで、
今では生きがいになっています！

中満地区の皆さんは、震災前はそれぞれ別の行政区に居住していた背景を持っており、新しいコミュニティの形成に重点を置きながら、私も生活支援コーディネーターとしてミニデイに関わってきました。今では参加者の皆さんが主体となってミニデイを運営しており、お互いに顔を合わせる機会を積み重ねてきたことによって、ミニデイ以外の場面でもご近所さんどうしのつながりが醸成されています。取材の様子は、全国社会福祉協議会の発行誌『月刊福祉』（令和6年3月号）の巻頭ページに掲載される予定です♪

fromほうかつ ころむ



主任介護支援専門員
兼認知症地域支援推進員 江尻 しのぶ

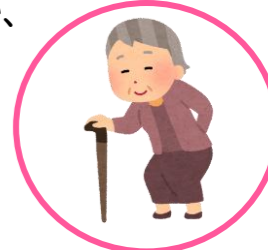
認知症を予防するために・・・

2025年には、5.4人に1人が認知症になるとのデータもあり、いずれ私も認知症になるだろうなあ～とっていますが、なるべくならなりたくないのだから意識してトレーニングしていることがあります。

それは、「自分を客観的に見ること」です。一見、認知症予防とは関係ないように見えるかもしれませんが、脳の萎縮によって抑制機能が衰えてしまい、自分以外の人や物事についてどう思っているか、どう考えているかという視点が持たなくなることがあります。些細なことで怒り出したり、気が散りやすくなり集中力が続かないような行動です。

感情や行動のコントロールがきかなくなってしまうと家族や支援者へ負担をかけることになるので、今のうちから「周りはどう思っているか、世間はどうか反応しているか、自分との相違はどんな点か・・・」などの視点を持つ癖をつけようと日々取り組んでいます。

みなさんもぜひお試しください。
(それでも生活に支障が出たら、その時はその時で)



～ みんなのつぶやき ～



センター長 磐城

もう2月。早いですね。
正月で生活リズムが乱れてしまった方は
早く整えないと・・・

私は「食生活の見直し」と
「ラジオ体操」から！



社会福祉士 渡邊

暖冬と言われてはいますが、寒いです。
お身体ご自愛ください。



生活支援コーディネーター 小林

1月20日に、祭りをテーマとした
第9回ならコレが開催されました。
ご来場ありがとうございました！

作品展、ステージ発表など、
多彩なイベントとなりました♪



素朴な疑問コーナー



Q.「檜葉町勢振興計画」って何？

A. 檜葉町勢振興計画とは、町が今後目指す将来像を示した総合的な町政運営計画で、各分野の行政計画の最上位計画です。町の目指す姿として“笑顔とチャレンジがあふれるまち ならは”を掲げています。